

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	九州中央リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 立志学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
医療専門	作業療法学科	夜・通信	57 単位	13 単位	
	理学療法学科 昼間部	夜・通信	54 単位	13 単位	
	理学療法学科 夜間部	夜・通信	54 単位	6 単位	
	看護学科	夜・通信	49 単位	10 単位	
教育社会福祉	介護福祉学科	夜・通信	46 単位	7 単位	
工業	デジタルソリューション学科	夜・通信	7 単位	7 単位	
	情報システム学科	夜・通信	10 単位	7 単位	
(備考) 理学療法学科夜間部は 2027 年度から募集停止 デジタルソリューション学科は 2026 年から情報システム学科に名称変更。 2026 年度に在籍の実態があるのはデジタルソリューション学科 2 年生、情報システム学科 1 年生となる。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学院ホームページ上に公表 https://bit.ly/4vTFzqJ
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 該当無し
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	九州中央リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 立志学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学院ホームページ上に公表 https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/riji.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	医療法人 理事長	2025.6.24～ 2027 年度定時評議員会	人材育成に対するチェック機能
非常勤	民間会社 常務取締役	2025.6.24～ 2027 年度定時評議員会	学校法人運営に対するチェック機能
非常勤	民間会社 常務取締役	2026.6.16～ 2027 年度定時評議員会	学校法人運営に対するチェック機能
非常勤	民間会社 常務取締役	2026.6.16～ 2027 年度定時評議員会	学校法人経営に対するチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州中央リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 立志学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。 また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。	
授業計画書の公表方法	https://bit.ly/4oyicR6
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業科目の単位認定基準は以下の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、A・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 ①A・A・100～90点 ②A・89～80点 ③B・79～70点 ④C・69～60点 ⑤F・59点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学生の学習成績については学則並びに各学科細則に従い、以下の方法により算出した指標によって評価を行っており、この指標の算出方法についてはホームページで公開している。成績評価においては、1年間の全ての試験終業後に学科学年ごとにその学生が履修した授業科目全ての試験点数の平均点数(100点満点)により、学年順位を算出し、そのデータを基に成績評価並びに進級を決定している。 成績の分布状況についても、上記の算出方法により算出した指標により把握している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/seiseki.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校においては医療・福祉に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、各学科の教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに各学科細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。各学科のディプロマ・ポリシーは下記のとおりである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【作業療法学科】 1) 生命の尊厳、他者への思いやりや優しさを基本に医療人としての倫理観を育成する。 2) 社会人としての調和のとれた個性の育成を図る。 3) より専門的な知識・技能の習得を図る。 4) コミュニケーション能力を持ち、他者と協調し、自己の責任を全うできる人材の育成を図る。 【理学療法学科（昼間部）（夜間部）】 1) 理学療法士の仕事に誇りをもって取り組むことができる人 2) 理学療法士として必要な知識・技能を身につけ、臨床で活躍できる人 3) 社会性を育み、チームアプローチに必要なコミュニケーション力がある人 4) 理学療法を包括的に考え、理学療法の発展に寄与する研究活動ができる人 【看護学科】 1) 人間としての権利を尊重して行動できる心豊かな人間性が身についている 2) 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる 3) 人の健康上の援助を行うため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力が身についている 4) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として看護の役割と責任を果たす基礎的能力が身についている 5) 多様に変化している社会情勢を認識し、国際的視野で看護ができる基礎能力が身についている 6) 看護の専門職業人として倫理観を持ち、自己研鑽に努め看護を探究する態度が身についている。	

【介護福祉学科】

- 1) 心豊かな人間性を養い、専門職である介護福祉士として知識や技術を兼ね備えた介護プロフェッショナルとして働ける力を習得すること
- 2) あらゆる介護場面に必要とされる円滑なコミュニケーション能力を身につけ、他職種協働によるチームアプローチの的確な記録・記述の方法を身につけること
- 3) 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけ、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけること

【デジタルソリューション学科】

- ①デジタルビジネスパーソンとして、ITやDXの知識・技術を仕事に活かすことができる人。
- ②豊かな社会性と円滑なコミュニケーション能力を身につけ、チームとして仕事ができる人。
- ③地域社会、地域経済の発展に寄与することができる人。将来を担うIT・DXの専門家として、自己研鑽ができる人。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

作業療法学科：https://www.kcr.ac.jp/department_ot
理学療法学科昼間部：https://www.kcr.ac.jp/department_pt
理学療法学科夜間部：https://www.kcr.ac.jp/department_ptn
看護学科：https://www.kcr.ac.jp/department_ns
介護福祉学科：https://www.kcr.ac.jp/department_cw
デジタルソリューション学科：
https://www.kcr.ac.jp/lp/department_is/
情報システム学科：
https://www.kcr.ac.jp/lp/department_is/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	九州中央リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 立志学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/taisyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/syuusi.pdf
財産目録	https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/zaisan.pdf
事業報告書	https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/jigyo.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/kansa.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	作業療法学科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	139 単位	103 単位	14 単位	22 単位	単位	単位	
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160 人		85 人	人	6 人	19 人	25 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。 作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。
成績評価の基準・方法
（概要）・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・F の表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C 以上を合格とする。 ①AA・・・100～90 点 ②A・・・89～80 点 ③B・・・79～70 点 ④C・・・69～60 点 ⑤F・・・

59 点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が 60 点を超えた場合は C として扱う。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【作業療法学科】 1）生命の尊厳、他者への思いやりや優しさを基本に医療人としての倫理観を育成する。 2）社会人としての調和のとれた個性の育成を図る。 3）より専門的な知識・技能の習得を図る。 4）コミュニケーション能力を持ち、他者と協調し、自己の責任を全うできる人材の育成を図る。
学修支援等
（概要）担任・副担任制を導入、授業を通して全教員の早期の関わりを持つ。 高等学校を定年退職した先生と定期的に面談を行い、学習の進み具合や勉強の取り組み方について確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0 %)	18 人 (100%)	0 人 (0 %)
（主な就職、業界等） 医療施設（病院、クリニック等）			
（就職指導内容） メール配信による求人情報の提供、求人票の閲覧コーナーを図書室に配置、その他求人票に関する質問・相談窓口を設け担任を中心に対応。履歴書の書き方、面接指導を行なう。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士国家試験受験資格、福祉住環境コーディネーター2 級資格取得の支援と奨励			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89 人	6 人	6.7%
（中途退学の主な理由） 学業成績の問題、病気、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席した場合、本人、保護者並びに担任に通知する欠席連絡メールシステムを導入し授業の出席を促す。前期、後期の試験以外に小テストを行い習得の状況を把握する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科昼間部		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	140 単位	100 単位	20 単位	20 単位	単位	単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320 人		201 人	人	8 人	22 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。
成績評価の基準・方法
（概要）・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・F の表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C 以上を合格とする。 ①AA・・・100～90 点 ②A・・・89～80 点 ③B・・・79～70 点 ④C・・・69～60 点 ⑤F・・・59 点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が 60 点を超えた場合は C として扱う。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【理学療法学科昼間部】 1) 理学療法士の仕事に誇りをもって取り組むことができる人 2) 理学療法士として必要な知識・技能を身につけ、臨床で活躍できる人 3) 社会性を育み、チームアプローチに必要なコミュニケーション力がある人 4) 理学療法を包括的に考え、理学療法の発展に寄与する研究活動ができる人
学修支援等
（概要）1 科目 90 分に構成し授業の集中できる環境づくりを行っている。小テストを実施し学習の成果を確認。演習の科目を設け授業の進行に合わせて復習する時間を設ける。高等学校を定年退職した先生と定期的に面談を行い、学習の進み具合や勉強の取り組み方について確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
69 人 (100%)	0 人 (%)	67 人 (97.1%)	2 人 (2.9%)
（主な就職、業界等） 医療施設（病院、クリニック等）			
（就職指導内容） メール配信による求人情報の提供、求人票の閲覧コーナーを図書室に配置、その他求人 票に 関する質問・相談窓口を設け担任を中心に対応。履歴書の書き方、面接指導を行なう。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士国家試験受験資格、福祉住環境コーディネーター、 レッドコードベーシックコース			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
242 人	20 人	8.3%
（中途退学の主な理由） 学業成績の問題、進路変更、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席した場合、本人、保護者並びに担任に通知する欠席連絡メールシステムを導入し授業 の出席を促す。前期、後期の試験以外に小テストを行い習得の状況を把握する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科夜間部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	120 単位	91 単位	9 単位	20 単位	単位	単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		27 人	人	4 人	21 人	25 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。	
成績評価の基準・方法	
（概要）・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・F の表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C 以上を合格とする。 ①AA・・100～90 点 ②A・・89～80 点 ③B・・79～70 点 ④C・・69～60 点 ⑤F・・59 点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が 60 点を超えた場合は C として扱う。	
卒業・進級の認定基準	
（概要）本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【学科】 1) 理学療法士の仕事に誇りをもって取り組むことができる人 2) 理学療法士として必要な知識・技能を身につけ、臨床で活躍できる人 3) 社会性を育み、チームアプローチに必要なコミュニケーション力がある人 4) 理学療法を包括的に考え、理学療法の発展に寄与する研究活動ができる人	
学修支援等	
（概要）1 科目 90 分に構成し授業の集中できる環境づくりを行っている。小テストを実施し学習の成果を確認。演習の科目を設け授業の進行に合わせて復習する時間を設ける。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (%)	19 人 (82.6%)	4 人 (17.4%)
（主な就職、業界等） 医療施設（病院、クリニック等）			
（就職指導内容）メール配信による求人情報の提供、求人票の閲覧コーナーを図書室に配置、その他求人 票に関する質問・相談窓口を設け担任を中心に対応。履歴書の書き方、面接指導を行なう。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士国家試験受験資格、福祉住環境コーディネーター、 レッドコードベーシックコース			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	4 人	9.1%
（中途退学の主な理由） 学業成績の問題、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席した場合、本人、保護者並びに担任に通知する欠席連絡メールシステムを導入し授業の出席を促す。前期、後期の試験以外に小テストを行い習得の状況を把握する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	103 単位	74 単位	24 単位	5 単位	単位	単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		153 人	人	7 人	60 人	67 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。	
成績評価の基準・方法	
（概要）・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・F の表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C 以上を合格とする。 ①AA・・・100～90 点 ②A・・・89～80 点 ③B・・・79～70 点 ④C・・・69～60 点 ⑤F・・・59 点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が 60 点を超えた場合は C として扱う。	
卒業・進級の認定基準	
（概要）本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【看護学科】 1) 人間としての権利を尊重して行動できる心豊かな人間性が身についている 2) 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる 3) 人の健康上の援助を行うため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力が身についている 4) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として看護の役割と責任を果たす基礎的能力が身についている 5) 多様に変化している社会情勢を認識し、国際的視野で看護ができる基礎能力が身についている 6) 看護の専門職業人として倫理観を持ち、自己研鑽に努め看護を探究する態度が身についている	
学修支援等	
（概要）学習方法の個別指導や学力試験・模擬試験を実施している。1 年次には解剖の小テストを実施。また、施設利用について開校時間外に朝夕設けて、技術や勉学の取り組める支援体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
57 人 (100%)	0 人 (%)	54 人 (94.7%)	3 人 (5.3%)
（主な就職、業界等） 熊本県内外の医療機関			
（就職指導内容） 就職説明会の案内表示・就職担当との面談実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師国家試験受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
185 人	15 人	8.1%
（中途退学の主な理由） 学業成績の問題、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による学生の出席状況の確認。各学年朝礼終礼を行い学生の状況確認。担任との二者面談、三者面談の実施。スクールカウンセラーを設置し精神面も支援を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育社会福祉		教育社会福祉 専門課程	介護福祉学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	77 単位	32 単位	32 単位	13 単位	単位	単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		69 人	41 人	3 人	18 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また 3 月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。
成績評価の基準・方法
（概要）・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・F の表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C 以上を合格とする。 ①AA・・100～90 点 ②A・・89～80 点 ③B・・79～70 点 ④C・・69～60 点 ⑤F・・59 点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が 60 点を超えた場合は C として扱う。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校においては医療に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【介護福祉学科】 1) 心豊かな人間性を養い、専門職である介護福祉士として知識や技術を兼ね備えた介護プロフェッショナルとして働ける力を習得すること 2) あらゆる介護場面に必要とされる円滑なコミュニケーション能力を身につけ、他職種協働によるチームアプローチの的確な記録・記述の方法を身につけること 3) 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけ、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけること
学修支援等
（概要）前期及び後期末に定期試験が行われている。単位習得基準に満たさなかった学生においては、再試験、再々試験を行っている。特に 1 年次の学生に対しては、授業の進捗状況に伴い小テストを行い学習の成果を確認し、細やかなフォローを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	0 人 (%)	20 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等） 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、障がい者支援施設			
（就職指導内容） 履歴書指導、面接指導、小論文指導、一般常識試験対策等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士、福祉住環境コーディネーター、認知症コーディネーター			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） 学業成績の問題、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席と成績の相関性が高いことから、出席状態の改善を意識している。また、随時保護者 に連絡を行い、必要によっては、担任、学科長、本人、保護者との面談を行い指導してい る。スクールカウンセラーを設置しており精神面での支援を行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	デジタルソリューション学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	60 単位	39 単位	19 単位	2 単位	単位	単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		14 人	人	3 人	10 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。
成績評価の基準・方法
（概要）・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・Fの表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C以上を合格とする。 ①AA・・・100～90点 ②A・・・89～80点 ③B・・・79～70点 ④C・・・69～60点 ⑤F・・・59点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が60点を超えた場合はCとして扱う。
卒業・進級の認定基準
（概要）本校においては情報通信技術に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【デジタルソリューション学科】 ①デジタルビジネスパーソンとして、ITやDXの知識・技術を仕事に活かすことができる人。 ②豊かな社会性と円滑なコミュニケーション能力を身につけ、チームとして仕事ができる人。 ③地域社会、地域経済の発展に寄与することができる人。 将来を担うIT・DXの専門家として、自己研鑽ができる人。
学修支援等
（概要） 前期および後期の期末には定期試験を実施している。単位修得基準に達しなかった学生に対しては、再試験や再々試験を実施している。また、日々の授業において理解が不十分な学生には、放課後の時間を活用して丁寧なフォローを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (%)	12 人 (%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等） （株）K I S、（株）電盛社、（株）R K K C S ソフト、（株）九州ソフタス、九州デジタルソリューションズ（株）、（株）テクノアート、アルサーガパートナーズ（株）			
（就職指導内容） インターンシップ（1 年次）、企業講話（1 年次、2 0 社）、ガイダンス参加（1 年次）			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者、基本情報技術者、I T パスポート、情報セキュリティマネジメント			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	2 人	7.1%
（中途退学の主な理由） 学業成績の問題、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席と成績の相関性が高いことから、出席状態の改善を意識している。また、随時保護者 に連絡を行い、必要によっては、担任、学科長、本人、保護者との面談を行い指導している。スクールカウンセラーを設置しており精神面での支援を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	42 単位	14 単位	6 単位	単位	単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		11 人	1 人	3 人	10 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）授業計画については、関係者からなる教育課程編成委員会において授業実績をふまえ次年度の授業計画作成にあたって意見交換し方針を策定する。出された意見や方針に基づき担当講師が授業計画を作成し、学科会議、運営会議を経て最終決定する。作成された授業計画は年度初めのオリエンテーションにおいて学生に周知、説明を行っている。また3月中旬には学院のホームページを活用し、シラバス、教育課程ともに閲覧可能となっている。	
成績評価の基準・方法	
（概要）・各授業科目においては、あらかじめシラバスに明記する方法により厳格かつ適正に履修認定を行っており、各授業の単位認定基準は下記の通りである。 ・各科目の成績評定は筆記試験、実技試験、レポート成績及び出席状況を総合的に判断し、AA・A・B・C・F の表示にて記録し、学院長へ報告する。 ・評定区分は次に定める通りとし、C 以上を合格とする。 ①AA・・・100～90 点 ②A・・・89～80 点 ③B・・・79～70 点 ④C・・・69～60 点 ⑤F・・・59 点以下 ・合格者には所定の単位を認定する。 ・再試験の成績評定は、その再試験の結果が 60 点を超えた場合は C として扱う。	
卒業・進級の認定基準	
（概要）本校においては情報通信技術に関する技能を身につけた人材の育成を目的としており、学則等に定める所定の時間在学习し、教育課程に定める単位時間の成績を修めることを卒業の要件としている。詳細については学則並びに細則に規定しており、学生の卒業認定についてもこれらの規定に従い適切に実施している。ディプロマ・ポリシーは下記の通りである。ディプロマ・ポリシーについては本校のホームページ上で公開している。 【情報システム学科】 1) IT 人材やデジタルクリエイターとして、IT や DX の知識・技術を活用し、実務に応用できること。 2) 豊かな社会性と円滑なコミュニケーション能力を備え、チームで協働できること。 3) 地域社会や地域経済の発展に貢献する意識を持ち、積極的に関わること。 4) IT・DX 分野の専門家として、常に学び続け、自己研鑽を積む姿勢を持つこと。 5) 課題に対して責任を持ち、主体的に解決へと取り組む姿勢を身につけること。	
学修支援等	
（概要） 前期および後期の期末には定期試験を実施している。単位修得基準に達しなかった学生に対しては、再試験や再々試験を実施している。また、日々の授業において理解が不十分な学生には、放課後の時間を活用して丁寧なフォローを行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）2026 年 4 月名称変更。2 年課程であり 2028 年の完成年度到達前のため、現時点で卒業生は存在していません。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席と成績の相関性が高いことから、出席状態の改善を意識している。また、随時保護者に連絡を行い、必要によっては、担任、学科長、本人、保護者との面談を行い指導している。スクールカウンセラーを設置しており精神面での支援を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
作業療法学科	300,000 円	600,000 円	450,000 円	
理学療法学科	300,000 円	600,000 円	450,000 円	
理学療法学科夜間部	300,000 円	500,000 円	450,000 円	
看護学科	200,000 円	520,000 円	320,000 円	
介護福祉学科	150,000 円	480,000 円	200,000 円	
国際介護学科	50,000 円	150,000 円	100,000 円	
デジタルソリューション学科	100,000 円	600,000 円	200,000 円	
情報システム学科	100,000 円	600,000 円	200,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/jikotenken.pdf		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制） 評価委員の構成：関連業界の代表者、関連企業の代表者、地域住民、卒業生、保護者代表 によって構成（6 名） 評価項目：①教育理念・目標②学校運営③教育活動④学習成果・教育成果⑤学生支援⑥教 育環境⑦学生の受入れ募集⑧教育の内部質保証システム⑨財務⑩社会貢献・地域貢献⑪国 際交流について評価を行う。自己評価結果は理事会に報告され、評価点数の低い項目につ いては運営会議及び学科会議にて共有し学校関係者評価担当者を実行責任者として学科単 位で改善方法を検討し見直しを行う。 尚、学校関係者評価については本校のホームページ上で公開している。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
県理学療法士協会理事	2026. 4. 1～2028. 3. 31	関連業界代表者
小規模多機能型介護住宅管理者	2026. 4. 1～2028. 3. 31	関連企業の代表者
医療機関の看護部長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	関連企業の代表者
自治会長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	地域の住民代表
後援会会長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	保護者代表者
同窓会会長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	卒業生代表者
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kcr.ac.jp/wp/wp-content/themes/tmp_2024/assets/media/information/2026/hyouka.pdf		
(備考)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kcr.ac.jp/information/
--